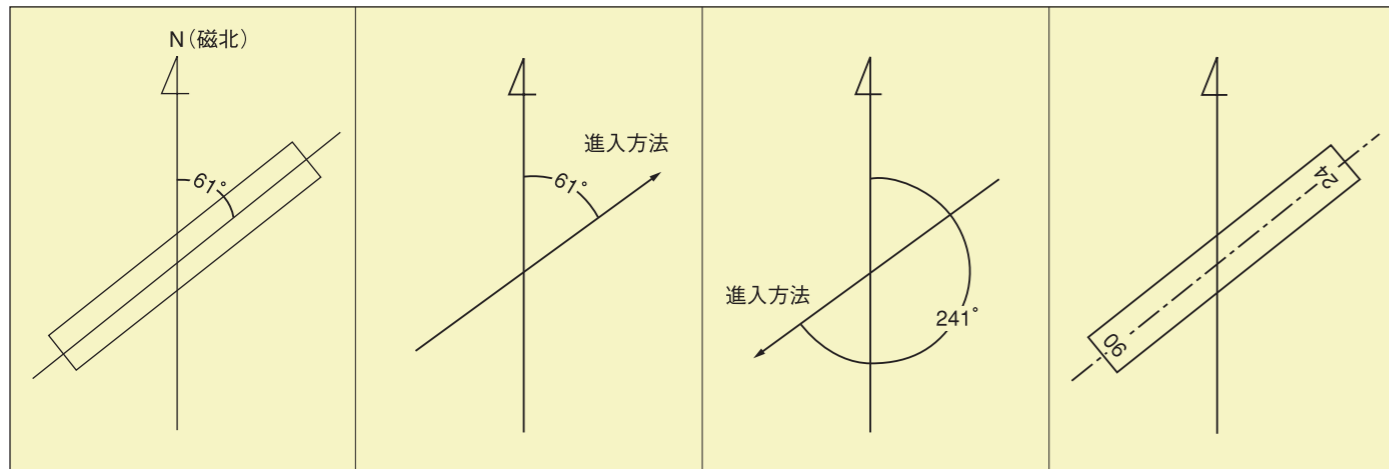


# 指示標識

指示標識は、進入方向から見た滑走路の磁北から右まわりに測った角度の10分の1の整数(小数点以下を四捨五入する)とし、1桁の場合には最初に0を付ける。

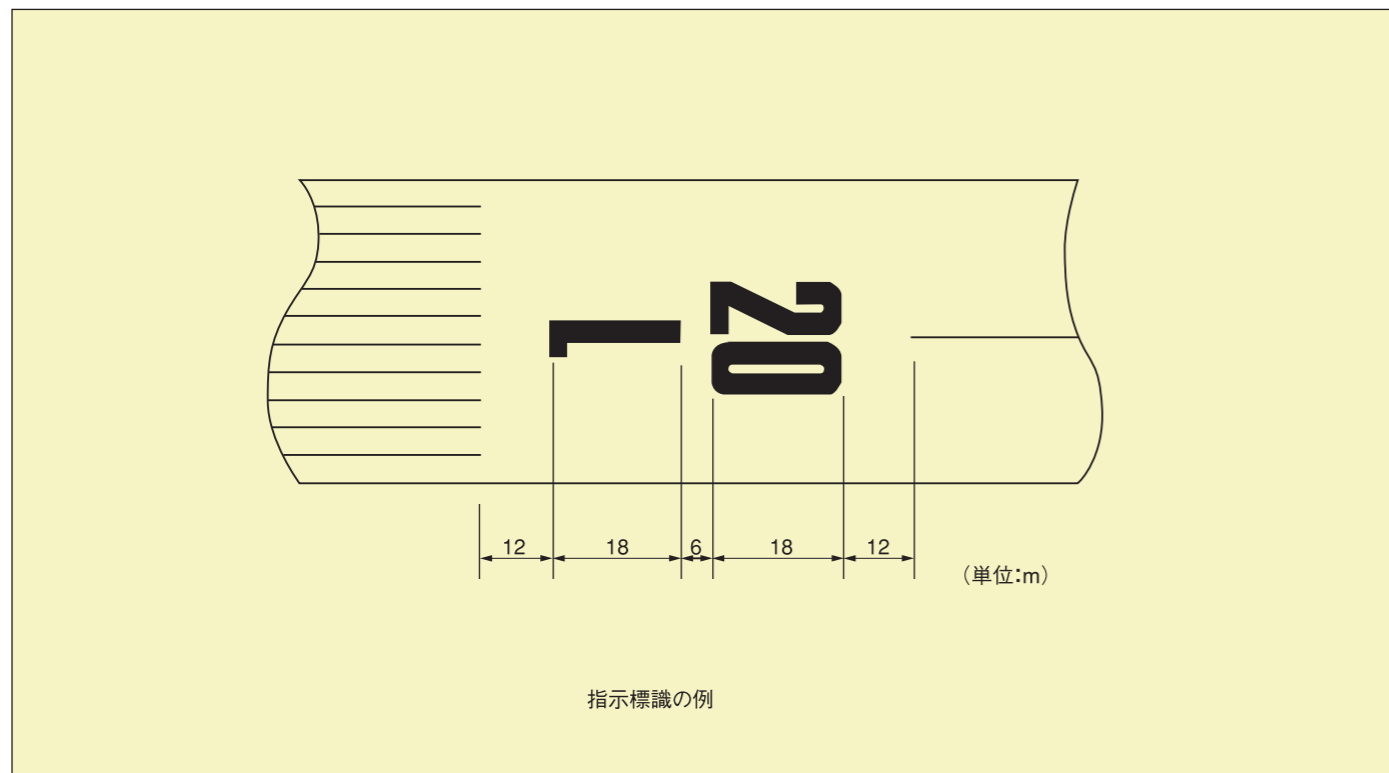
〈指示標識の例〉



※進入方向から見た滑走路の方位は61°であるから、1/10で6.1となり、数字は06とする。  
 ※進入方向から見た滑走路の方位は241°であるから、1/10で24.1となり、数字は24とする。

なお、平行滑走路の場合は、上記の数字のほか、進入方向から見て左側の滑走路には「L」、右側の滑走路には「R」のローマ字を加える。又、近接する飛行場の滑走路の指示標識の数字と等しくなる場合には、指示標識の数字は、上記によって求めた指示標識の数字に1を加えた整数、又は1を減じた整数とする。

平行滑走路における指示標識の設置位置および寸法の例を下図に示す。



平行滑走路が3本となった場合には、進入方向から見て左側から「L」、「C」、「R」、4本の場合「L」、「LC」、「RC」、「R」、5本の場合「L」、「LC」、「C」、「RC」、「R」とする。

# ILS施設全景

Instrument Landing System (計器着陸装置)



ローカライザー

滑走路の末端に設置し、航空機が着陸の際、水平方向にずれないように電波を発信する施設。



グライドスロープ

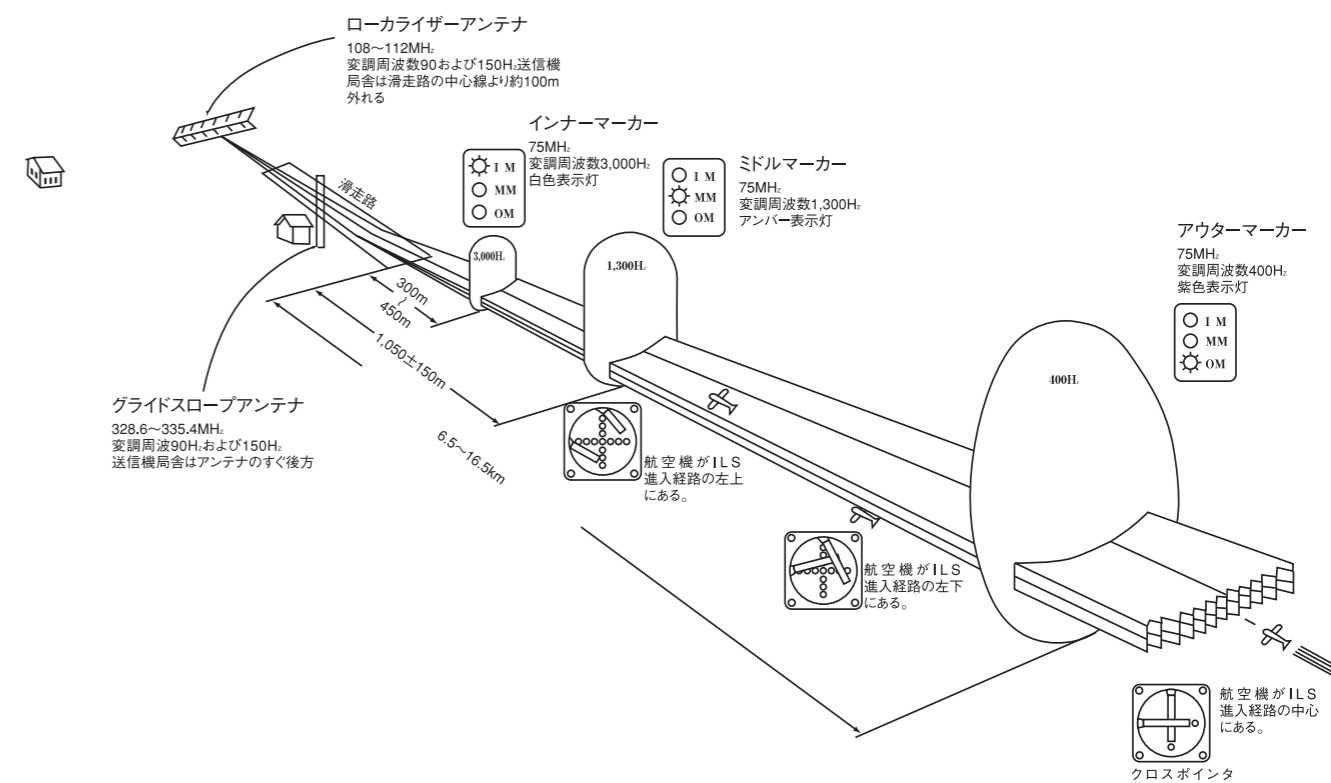
ローカライザーと同様で、滑走路の末端側面に設置し、航空機が垂直方向にずれないように電波誘導施設。



ミドルマーカー

滑走路の中心線上に設置して、航空機が着陸する際、滑走路から一定の距離に到達したことを電波で知らせる施設。

## ILS施設概念図



## ILS電波イメージ図

